

これについてご答弁いただければというふうに思います。

○議長 答弁を求めます。

○建設部長 建設部長です。

1点目、1.2倍に付随して2年後ということ、もうちょっと増えるんじゃないかというよう  
なご質問だったかというふうに思っています。

こちら1.2倍につきましては、国交省の建設工事デフレーターという指標ございまして、物価  
上昇を見込んでいる数値がございまして。平成30年から平成6年までに約120%、平成30を  
100としますと120というポイントになってございまして、約1.2倍、資材高騰分としては  
その部分になってございまして。この間、工事に関わる諸経費というのがございまして、そうい  
った部分も上昇していますので、数字的には1.2倍になってございませんが、いわゆるそういうも  
のを除くと約1.2倍程度なのかなと。そういうことに基づいて、こちらを出ささせていただいてご  
ざいます。

そうしますと、6年で1.2倍ということございまして、2年後にもこのままで行けるので  
はないかということ、今見込んで、ご提示をさせていただいているというような状況になってご  
ざいます。

増えた場合の財源については、財政課長のほうでいいですか。

2点目と財政の件については。

○議長 市長からご発言があるということございまして。

○市長 財源についてご心配されているだろうと思います。当然、私が一番心配しています。合  
併特例債が46億円不足をするということで、これに当たる分について、今、内閣府のほうに掛  
け合っておりまして、先ほど建設部長から話がありました原発債というものを充当できるよう、  
今、地元の国会議員の先生方をお願いをしつつ、内閣府と県と調整をしているところでござい  
ます。この財源が確保できなければ先には進まないということで今考えておりますので、ご了承  
いただければと思います。

○議長

市長からもご答弁いただきまして、ありがとうございます。責任者としての答弁で  
ありますので、重い発言だったというふうに認識をしております。内閣府及び県との調整も含め  
ながら、原発債の活用で、これがもし認められない場合にはその時点で取りあえずストップせ  
ざるを得ないということ、工事をやめるということ。計画をやめるということとはまた別な観点で  
考えるべきだというふうに思っています。その認識を新たにしたところでありましてけれども、そ  
ういった意味では積極的にさらに強く要望して活動していただきたいとは思っています。

ただ、そうは言っても、大元に返りますと、もともとこれは昔からの名称でいうと県道常陸太  
田笠間線が一本化されて日立笠間線になった路線のことだという認識をすべきだと思っ  
ています。そういうふうに考えていくと、数々の理由の中で、今回は常陸太田市がこの路線のこの区間に関  
しては負担をするというような形で議会も承認した経緯がありますので、これまでのところにつ  
いては承認を覆すということはありません。

しかし、今後のことについて、県の関わり方が、今、市長から、今後の助成ということに関し  
て、国と県とに深く関わりを持ってもらうというような発言がありましたけれども、さらに県と  
しての負担というものがあつてしかるべきなのかなというふうに思ったりもしています。このこ  
とについては、これから私自身もさらに研究を重ねてまいりますので、もともとは県道である  
という認識がどっかで消えてしまうのが私としては怖いと思っています。

これが完成したときに、当然市道にはならないと思っています。県道は日立笠間線という